

Citation: Li W, Liu M, Feng S, Wu B, Zhang S, Yang W, Liu GJ. Acanthopanax for acute ischaemic stroke. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 3. Art. No.: CD007032. DOI: 10.1002/14651858.CD007032.pub2.
CRG名: Stroke

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 19 January 2008
Clib issue No.; N/U: 2009 issue 3, New

背景: 急性虚血性脳卒中は死亡および能力障害の一般的な原因である。中国で発表された多くの研究から、アcantパナクスは急性虚血性脳卒中に有益であることが示されている。

目的: 急性虚血性脳卒中の患者を対象にアcantパナクスの有効性および安全性を評価する。

検索戦略: Chochrane Stroke Group Trials Register(最終検索2008年1月)、Chinese Stroke Trials Register(最終検索2008年3月)およびTrials Register of the Cochrane Complementary Medicine Field(最終検索2008年1月)を検索した。さらに、Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)(コクラン・ライブラリ2008年第1号)、MEDLINE(1966年~2008年3月)、EMBASE(1980年~2008年3月)、CINAHL(1982年~2008年3月)、AMED(1985年~2008年3月)、ならびにChina Biological Medicine Database(CBM-disc)(1979年~2008年3月)を含む9件の中国語文献データベースを検索した。また、中国のジャーナル3誌をハンドサーチし、参考文献リスト、関連性のある臨床試験の登録および研究データベースを検索した。発表済みの試験、未発表の試験および進行中の試験をさらに同定するため、製薬会社、研究者および研究著者にも問い合わせた。

選択基準: 急性虚血性脳卒中の患者を対象にアcantパナクスをプラセボまたはオープン・コントロール(プラセボなし)と比較しているランダム化比較試験を含めた。

データ収集と分析: レビューア2名が独自に含める試験を選択し、試験の質を評価し、データを抽出した。

主な結果: 試験13件(参加者962例)を含めた。含めたすべての試験の追跡期間は10日~30日であった。いずれの試験も、事前に特定していた主要アウトカムである追跡期間中における死亡および自立障害について報告していなかった。含めた試験のすべてのアウトカム指標は、治療後の神経脱落症候の改善であった。アcantパナクスは神経学的障害が改善した参加者数の有意な増加と関連していた(リスク比(RR)1.22、95%信頼区間(CI)1.15~1.29)。有害事象は試験2件で報告されていたが、5件では有害事象の報告はなかった。

レビューアの結論: 含まれた試験はすべてバイアスの危険性が高かった。そのため、データは急性脳卒中におけるアcantパナクスの有効性に関して信頼できる結論を導き出すには適切でなかった。方法論的に質の高いはるかに大規模な試験が必要である。

(監訳 江川賢一)
翻訳公開日: 09年11月16日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。